

21世紀の山形の教育が、
燦々と輝く太陽のように明るく希望に満ちたものになるよう
そして、この温かさが一人一人の子どもに伝わり
笑顔いっぱいの「いのち輝く子ども」になってほしい

一人ひとりの子どもへのきめ細かな指導を通じて、「わかる授業」「いじめや不登校のない楽しい学校」にしていくことは、学校教育を進める上で大切にしていかなければならないことです。本県では中学校1年生まで少人数学級編制を実施し、学力の向上、欠席する児童の減少等の成果を上げることができました。しかし、不登校生徒や別室登校生徒は増加の傾向にあり、進路に対する不安や生活上の悩みも多岐にわたってきている現状が見られ、より一層個に応じた指導の必要性を強く感じております。

県教育委員会としては、少人数学級編制を中学校第3学年まで拡充することで、教師が生徒とじっくり向き合い、豊かなコミュニケーションの中で生徒との結びつきを強め、生徒一人ひとりの能力を最大限に引き出す教育を推進していきたいと考えています。また、小学校低学年で集団生活に適応するのに時間のかかる児童が増えてきていることや、考える力が発達する高学年から算数等の学力が低下している傾向が見られること等から、これらの課題に対応した施策も実施していく必要もあると考えています。

そして、中学校第3学年まで少人数学級編制を拡充する見通しとなったことから、義務教育9年間の少人数教育に係るすべての施策を総称して、教育山形「さんさん」プランと名付けることとしました。

◆ 中学校第3学年迄、少人数学級編制の早期実現をめざします

① H21年：中学校第2学年で8校実施

【今後の計画】

② H22年：中学校第2学年まで全面実施の予定

※ 中学校第3学年で8校実施の予定

③ H23年：中学校第3学年まで全面実施の予定

◆ 喫緊の課題に対応した施策を実施します

① 低学年副担任制（学年単学級で多人数の場合副担任を配置）

② 重点教科充実制（小5～中1を対象とし教科支援教員を配置）

※ 重点教科：算数・理科・外国語活動・数学・外国語

③ 別室登校学習支援員の配置

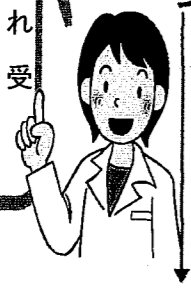
平成21年6月 山形県教育委員会

今後の教育山形「さんさん」プランの概要

私は、低学年副担任です。
担任と一緒に学習指導や生活指導をします。
子どもたちが、集団生活に適応できようきめ細かな指導をしていきます。



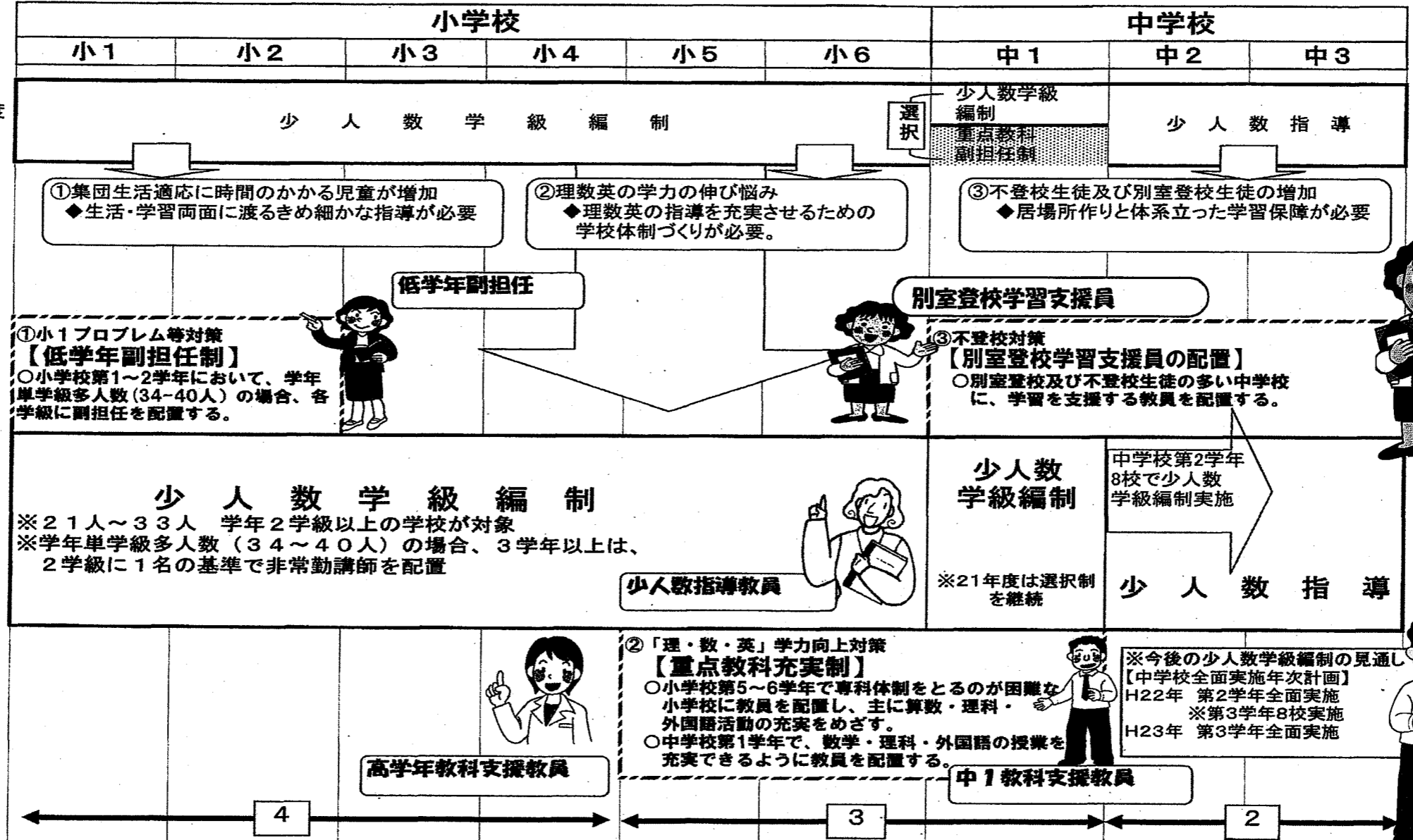
私は、高学年教科支援教員です。
校内で、高学年での専科体制がとれるように授業を受け持ちます。



私は、別室登校学習支援員です。
個別の学習支援室にいつでも、ここに来る生徒一人一人の学習を支援します。
悩み事があれば、学習以外の相談も受けれます。

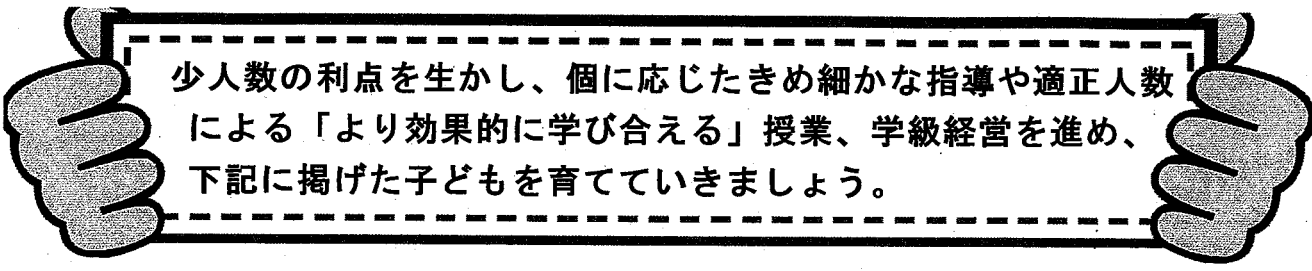


私は、中1教科支援教員です。専門教科は理科です。一人で理科の授業もできるし、チームティーチングなどで、数学や英語の先生と一緒に指導することもできます。



少人数学級編制以外の各施策と教員の配置

施策名	低学年副担任制	少人数指導教員の配置 (学年単学級多人数の場合)	重点教科充実制 重点教科(算・理・外国語活動・数・外国語)		別室登校学習支援員の配置
			小学校5年生、6年生	中学校1年生	
配置教員の名称	○低学年副担任	○少人数指導教員	○高学年教科支援教員		○中1教科支援教員
目的	○発達障がいや様々な課題を抱え、集団生活に適応に時間がかかる児童に対し、個に応じたきめ細かな指導ができるようにする。	○学年単学級多人数の場合、チームティーチングや習熟の程度に応じた指導など少人数指導ができるようにする。	○小学校高学年における一部専科体制を支援し、本県で重点教科等として位置づけている「算数・理科・外国語活動」の力を高めるようにする。		○指導体制を充実し、本県で重点教科として位置づけている「数学・理科・外国語」の力を高めるようにする。
配置基準	①小1～小2 ②34～40人の単学級 ③1学級に1人	①小3～小6 ②34～40人の単学級 ③2学級に1人	①小5～小6 ②週3～5時間程度の専科体制をとるのが困難な学校 ○担任外が教頭含めて2人で高学年学級数が4学級以上の学校 ○担任外が教頭含めて3人で高学年学級数が7学級以上の学校		①中1 ②学年66人以下の学校 (小規模・併設校除く) ※学年67人以上の場合は常勤講師を配置
活用の仕方	○副担任として、学級の学習及び生活全般にわたって担任を助け、協力して児童の指導にあたる。	○学校の実態に応じ、チームティーチングや習熟の程度に応じた指導等、担任と協力して各教科等の指導にあたる。	○専科体制を支える教員として、高学年の授業を受け持つ。		○生徒の実態に応じ、数学や理科、外国語等においてチームティーチングや習熟の程度に応じた指導にあたる。



少人数の利点を生かし、個に応じたきめ細かな指導や適正人数による「より効果的に学び合える」授業、学級経営を進め、下記に掲げた子どもを育てていきましょう。

(1) 勉強がわかり、自ら学び続ける子ども

- ◇一人一人が勉強がわかるようになるために
 - ・学級規模や学習の目的に応じた学習形態・学び方を工夫し、より効果的に学習できるようにする。
 - ・丁寧に子どもを見取り、深い子ども理解に基づいて、個に応じた適切な指導をする。
- ◇「自ら学び続ける」ために
 - ・わかる喜びや学ぶ意味（学び甲斐）を実感できるようにする。
 - ・子どもの興味・関心や能力、発達段階、家庭生活等を踏まえ、「自学自習の習慣化」を図る。

(2) よく考え、知識・技能を活用できる子ども

- ◇使える知識・技能を習得していくために
 - ・体験や具体的な活動（調査・実験・操作）、表現活動（言語活動等）を通して、学習内容や方法を理解できるようにする。
 - ・知識、技能の確実な習得のため、意欲が継続する繰り返し学習、家庭学習と連動した指導など、個に応じた指導を一層工夫する。
- ◇よく考え、知識・技能を活用しながら課題解決していくために
 - ・目的に応じて情報を整理し、自分の考えを持つ態度を育成する。
 - ・精一杯「考え合い、表現し合う」授業をつくる。
 - ・学び合ったことを価値づけたり、納得したりする「振り返り」を大切にする。

(3) 心の通い合うコミュニケーションができる子ども

- ◇心の通い合うコミュニケーションのある授業にするために
 - ・対話しながら考えを深める学び方を大切にする。
 - ・伝えたい、共に語り合いたい体験や協同学習を大切にする。
- ◇心の通い合うコミュニケーションのある学校生活にするために
 - ・子ども一人一人がありのまま受け入れられるようにする。
 - ・見方、考え方の違いが大切にされ、安心して自己表現できるようにする。
- ◇心の通い合うコミュニケーションを大切にする教師になるために
 - ・子どもの話を共感的に受け止め、心の支えになれるようにする。
 - ・子どもの変化を敏感に捉え、深い子ども理解による適切な関係を構築する。